

味噌汁(葱)

菜漬

焼豆腐

煮附

庵澤

青芋

最近外國雜誌の抜き書き

近藤耕藏

(一) 無花果より コーヒー

コーヒーが一般の飲料になつてより以來、之に代用すべきものが他に求められないであらふか云ふ事は、多くの人の念頭に往來したる問題であつた、もつと、美味な飲料はないものであらふかもつと、廉價なる飲料はないものであらうか。工夫家はコーヒーを飲む度に頭をひねつて此等の問題を考へて見た、而して、其の代用品として提供せられたるものも少なくはないが、どうも著しく賞讃を博するに至つたものはないのであつた。

然るに最近に於て、意外の方面から吾れこそはと云ふて名乗り出でたるものがあつた、それは無花果である。熟したる無花果を日に曝して乾固せしめ、若しくは氣候によりては然るべき装置によりて火力を用ひて乾燥せしめ、然る後に之を竈に入れて徐ろに焼いて、色か褐色若しくは殆んど

黒色になり且つぼろ／＼に碎き得る位までに至らしめて、然る後に之を粉末にし、其粉末を壓搾して板の様に固らしめたものは、濕氣を遠けて置けば永く保存する事が出来る。而して之を取り出して熱湯を注げば、直ちに其處に新式の無花果コーヒーが出来上りて、しかも色もよく香もよく味も亦悪くはない、と云ふことである。乾燥せる無花果一〇〇キロ瓦より七五キロ瓦の粉出来る。それを代價にすれば無花果の價は十五フランであつても(一フランは約四十錢)粉末にしたものは卸賣が六十フランで小賣が百フラン若しくは夫れ以上であるから、社會の一般が認めて之を使用するに至れば随分利益ある産業の一つとすることが出来やうとの評判。

(二) 一夜の間に白髮の老人

小説や傳記等のうちには、非常なる心勞の結果、一夜にして頭髮の悉く白くなつたことが傳へられて居るが、其の事は、どうも本當の事實であるらしい、中にもマリ、アントイネットに於ては確實なる歴史上の事實として一般に許されて居る。併し其白くなる原因に就ては學者の説明は甚だ一致を缺いて居る。グライヌワルドに於て一人の男子が急に白髮になつた場合に就てランドイス氏が調査したる其の報告によれば、其人の髮の心髓には、細かい空氣の泡が充滿して居て、之れが白色の原因を爲して居つたと云ふことである。メツチニコフ氏の説によれば之れはそんな物理的の事ではなく、毛髮の色素が生理的變化の爲めに消失するのであると云ふ。然るに又他

の學者は全然此の頭髮の急に白くなると云ふ事實其の物に疑を措いて、若しそう云ふ事實が見えたとすれば、之は本來の白髮の老人が、平素は白毛染によつて人の目を誤魔化して居つたのが、一旦非常に心配すべきやうな事件に出會して、例の隠れたる白毛染を行ふ餘裕がなかつた結果であらうと解釋して居る。

(三) 砂糖で消毒

砂糖が防腐的の効力あることは何人も能く知つて居る事柄である。砂糖煮や砂糖漬の如きものは今に始まつたものではない。併し獨乙の有數なる外科醫マクス博士が傷口を包むに砂糖が何よりもよろしいと云ふことを斷言したと云ふことは吾々に耳新しい喜びの音れである。同博士の意見によれば、總べて甘味ある物質は、此の目的に向て有効であるが、併し純粹なる甘蔗糖と糖菜糖とが其中の最良のものである。此等は消毒防腐の効力に於てはエキセレントであつて、其の上血液にも害を及ぼすことなく(久しく、かく信せられて居つたのは誤謬である)今日まで普通に使用せられたる防腐藥劑の何物よりも優良なるものと認める云々。

(四) 來るべき新式電燈

新しき電燈が今や將に米國に表はれんとして居る、それはタンダステン線の線を或る特別の仕方に於て使用し、球は從來のものは眞空であつたが、之は一氣壓内外の壓力ある窒素を充したものだ

云ふ。其の特質は割合に多量の電流を通することが出來、且つ電力の割合には光力が著しい、即ち六アンペア若しくは夫れ以上の電流を通することが出來、(譯者曰く、從來の炭素線を用ひたる電燈では十燭光で〇・三五アンペア位のものであります)且つ一燭光に要する電力は〇・五ワットである。(譯者曰く、從來の電燈では一燭光につき炭素線のもが三・五ワット、タンタリウム線が二ワット、タンクステンが一・二五ワット位のものであります)夫れ故に此の新電燈は公園とか劇場とか、其の他、從來の白熱電燈では間に合はなかつたところに大なる需用を見出すであらふとの見込みである。

(五) 防水布製造の種明し

防水布には車夫や郵便脚夫の雨衣の如く水も空氣も全く通さぬ種類もあり、又空氣は通すけれども水をはじく性質あるが爲めに水分を通さぬ種類もある次に其の製法を種明しするものは後の種類のものである。

防水布製造の方法は幾種もあるが、最も舊くより行はれ又最も普通に用ひられて居る方法は、醋酸アルミニウムを使用する方法であつて之れには、明礬の水溶液に醋酸鉛の水溶液を混じ、かくて生ずる硫酸鉛の沈澱を濾過し、其濾液に十分清淨になりたる布を浸し、若しくは其布の上に其液をつけて、遺憾なくしみ渡るやうになし、其儘其衣を乾かせばよい。かくて醋酸の一部が揮散

てし、布の間に塩基性の醋酸アルミニウムが残留し、之が水をはじくのである。

右の製法よりも一層好結果の得らるゝのは、硫酸アルミニウムの水溶液に、醋酸カルシウムの水溶液を混じてそこに生じたる硫酸カルシウムの沈澱を濾過し、後に得たる醋酸アルミニウムの溶液を使用するのであつて、其の割合は硫酸アルミニウム七〇に對し醋酸カルシウム一〇を使用すればよい。

單に醋酸アルミニウムの水溶液を使用したのみで防水布の出来ることは上記の如くであるが、一層丁寧にするれば、ボーマーの三度乃至五度の醋酸アルミニウム溶液に二〇分間も浸し、次に炭酸ソーダ、若しくは炭酸カリ、若しくは水酸化アンモニウムの稀き溶液中に浸すこと二十分間、かくて布の間に水酸化アルミニウム生せしめ、此布をシン、シン張りして乾燥せしめて酸化アルミニウムに變化せしむるものである。

更に一層持久的防水布を製し得る方法は、右の如く醋酸アルミニウムの溶液にて處理したる上、稀薄なる石鹼溶液に其布を浸すことであつて、かくて水に不溶解なるアルミニウム石鹼を出來させる、アルミニウム石鹼言ひ換ふれば脂肪酸アルミニウムは水をはじく性質に於て大に、前記のアルミニウム化合物に勝つて居るのみでなく、布にしつかりと附着して容易に剝げ落ちる、若しくは磨れ落ちることがないのである、但し石鹼を餘りに多量に用ひすぎた時には、手に觸れて

きし、くする感と興ふるものであるからかくありと見た時には、ボーマー一度乃至一度半の酢酸液をじくり、此の液に布を一度くぐらすればよろしい。

黒田先生を送る

事は過ぎ去りたるもつきぬ思ひのなほ新しきは黒田先生御轉任の御事なり。

惜しみて我等の力及ばざる事なればほゝ笑みて送りまつらんとつとめぬれど感慨胸にせまりて惜別の涙留めかねたるこそ人の真情ならめ。

四年の月日師の君とも仰ぎ父君とも慕ひまつりしものを今は早思ひ出をなつかしむのみにて先生の御教へを親しく受けん日は永久に去りぬ。

先生の暖き御手に迎へられし吾等の再び御見送りを受けて校門を出でんとは等しく期せし願ひなりしに、かくて我等來春茗溪河畔を辭せん時、まさにほころびんとする校庭の櫻に別れん時、我校の師の君として先生の御姿を誰か見出し得べき。

顧みれば先生我校に教への鞭を取り給ふに至りしは十五年の昔なりしときく。爾後先生の御薫陶を受けしもの幾何なるかをしらす。されど人皆先生を偲びまつるごとに云ふべからざる感にうた